

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 年 月 日

事業所名 生活支援ネットBe星が岡ステーション

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	2		2階を着替えや学習スペースとして活用し、人数が多い際には分散している。	
	2 職員の配置数は適切である	3	2			基準は満たしているが、利用者の特性によって慌ただしい日もあるためスタッフの増員を目指している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		3	2		階段や玄関の段差等があるため、必要に応じてスタッフが個別対応する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			毎月会議を行い、スタッフ全員で議題を決めて意見を出し合っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	3			アンケート結果を踏まえた具体的な対応が出来ていなかった項目もあるため、しっかり見直しを行っていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5				
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5				
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			学習会や研修への積極的な参加を促している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5				
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5				
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5			長期休みのイベント等、毎年違ったものをチームで考えて実施している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5				
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		5			平日、休日等の課題を分けて設定できていないため、それぞれの課題設定を行うようにする。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2	3		他者との関わりが少ない子に対して個別対応し、他の子ども関わってあげるように支援している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	3		事前に対応表を配布し、前日に必ず確認と周知を行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			終礼を行いその日を振り返り、特記事項を共有したり、変更点の確認をしっている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			情報共有を行いながら正しい記録を記載している。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	1		半年に1度モニタリング、策定会議を行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5					
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5				
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5			保護者だけではなく、学校の先生とも適宜連絡を取り合い、情報共有している。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			5		医療的ケア児の受け入れは行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5				契約時に担当者会議を行い、情報共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5				該当者がいる際には、担当者会議等に参加し情報共有を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3			子ども連絡会や担当者会議等で、専門機関からの助言をいただき実践している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5				今後、学童クラブとの交流イベントを定期的に行っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5				毎月必ず参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5				LINEを活用し、日々の写真や動画等も用いながら保護者との情報共有を行っている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		4	1		ペアレントトレーニングは現在行っていない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5				契約時に必ず行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5				相談に応じ、必要な際は相談員とも連携しながら対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5				今後さらに保護者との連携を強化していくため、イベント等も共同で行っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5				苦情には迅速に対応し、情報共有し再発防止に努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5				毎月、活動の様子を載せたものを全員に発送している。
	35	個人情報に十分注意している	5				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5				イラスト等も用いながら、分かりやすく伝える工夫をしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5				地域の方や保護者を招くイベントを積極的に開催していく。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している			5		保護者への周知が不十分なマニュアルがあるため、周知していく。
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	3			年に1度避難訓練を実施しているが、参加できていない利用者もいるため改善していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5				虐待防止の学習会に全員参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5				やむを得ず身体拘束を行う場合は支援計画に反映し、保護者の同意を得ている。虐待防止委員会で報告・協議を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5				現在アレルギーのある利用者はいないが、契約時に必ず確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2			ヒヤリハットは日々共有しているが、事例集の共有が不十分のため今後対応していく。